

⑤ 私の3歳の時の記憶

匿名

当時3歳だった私は他の事は何ひとつ覚えていないのに、今でも不思議なくらい鮮明にその時の光景が目に残ります。後から知ったことですが、多分、昭和20年の大阪空襲の頃だったのではと思います。今でも実家は豊中にあります。

3歳上の姉は小学1年生でした。空襲警報が鳴る度に「また空襲警報や!」と泣きながら学校から走って帰ってきた姿が思い出されます。空はうす暗くなり雨がポツポツと降り出し、母はまだ赤ちゃんの妹を抱き、私は父に背負われて庭にある防空壕へと走ります。防空壕の中はうす暗くてオレンジ色の電気(もしかしたらローソクだったかもしれません)が灯り、一番奥には祖母が座っていてその前に茹でたジャガイモが湯気をたててザルの中にいっぱい入っていたのを覚えています。

空襲警報の鳴る中、父は壕の外に出ていました。その時、柳の木の下に綺麗な銀色の物がキラキラと光りながら落ちていきました。母が大きな声で「お父ちゃん、危ないからはよ中に入りなはれ!」と叫んでいました。のちに落ちてきた銀色の物は焼夷弾の破片だと知りました。長い間、縁の下に置いてありました。私の中では銀色に光りながらヒラヒラと落ちてきた綺麗な物だったという記憶しかありません。空襲警報と焼夷弾の落ちる音は今でも耳に残り目に浮かぶのは防空壕での光景です。

子供達に私の3歳の時の記憶の話をすると「3歳で覚えている何て信じられへん!」と言いますが、それだけ私の中では強烈な体験だったのかもしれませんが。戦争を知らない子供達は、戦後の食べ物にも大変だった事も知らず、今も戦争をしている国がある中で、今自分達がどんなに恵まれているのか、今の平和がどんなに有り難い事なのか、しっかりとかみしめてほしいと思っています。

戦後私が小学生になって、給食もない頃、蒸したさつまいもの輪切りの間にとろろ昆布をはさんだお弁当の時がありました。その時は、「こんなお弁当嫌やなあー」って思いながら食べました。最近思い出して作って食べてみたら意外に美味しくて…。今では私のメニューのひとつになっています。お米のかわりの主食「代用食」と言っていた頃のことです。今ではさつまいもも高価になりましたが…。